

郷土館だより

Vol. 17. No.1

1994. 9. 10



小出正吾文学碑

「お話しさんからのメッセー
ジ
子どもには
子どもの世界がある」

(詞冒頭部分)

子どもには子どもの世界がある
子どもが子どもとして生きる時
やがて大人の明日がくる

子どもには子どもの人生がある
子どもらが子どもの今日を生きる時
やがては大人の世界が生まれる

三島の生んだ童話作家・小出正吾翁を称える記念碑は、平成5年2月27日、生誕の地である竹林寺小路(中央町、市役所北)に建てられました。

小出正吾翁のこと

わが町三島の文化史上に際立つ功績を持ち、代表される人は、やはり児童文学者の小出正吾翁(H. 2没)に異論はないでしょう。

翁の作品は、華やかさはないが、清純な人柄をよく滲ませています。

作品には三島を題材にしたものも多く、かつて実在した子どもたちがたくさん登場します。子どもたちの遊び、生活を通し、人間愛、隣人愛を描写し、織り成す町の背景には心に残る三島を思い浮かべられます。

翁の作品を読んだ多くの人々は、不思議な懐かしさ感じ、自分自身の追憶へと、誘われることでしょう。

また、翁は三島の各小学校で児童たちにたくさんのお話をして回るなど、特に子どもたちへの文学の普及活動に力を注ぎました。

略歴

1897(明治30)～1990(平成2) 児童文学者。

三島市久保町に生まれました。家は農業と商業を営み、祖父の代からクリスチャンという環境の中で成長し、そうした家庭環境や生活が作品の中に大きく影響しています。

昭和2年『童話ろばの子』を出版、その後『白い雀』『太あ坊』『蛙の鳴く項』『風船虫』『かっぱ橋』『ジンの音』などを発表。そのほか、幼児絵本『のろまなローラー』『めんどりとこむぎつぶ』『空とぶ米ぐら』、紀行文『聖地巡礼』などを書き、回想録『童話から童話へ』があり、数多くの伝記物語、編著、翻訳再話などの作品をも手掛けました。

「童話作家協会賞」「野間児童文芸賞」を受賞しています。

企画展 「句碑と拓本展」

～ふるさとの文学散歩・宮治勲氏作品を中心に～

私たちの町三島には、箱根旧街道の路傍や清流に沿った小径、神社や寺院の境内の中などに、たくさんの句碑・歌碑・文学碑などがあります。碑面には、三島とゆかりの深い俳人、歌人、文学者たちの三島に寄せるそれぞれの思いや印象が、簡潔な美しい文章で表現されています。そのような碑の前に佇み、私たちは、しばしば懐かしい郷愁と味わいのある文学世界に引き込まれます。

このたびの企画展には、こうした郷土の句碑・歌碑・文学碑に魅せられて各地を巡り数多くの文学碑拓本を採り続けた宮治勲氏（沼津市出身・故人）の作品を中心として、郷土館が独自に採拓した三島市内および周辺各所の拓本を、合わせて展示いたしました。

拓本は墨一色のモノクロ世界ではありますが、和紙の上に浮か上がった俳句・和歌、あるいは文学者たちの朱玉の文章には、屋外の碑面では味わうことの出来ない、一味違った独特の趣があります。

本展示が気軽な文学散歩の場としてご利用頂き、多くのみなさまの郷土理解の一助となれば幸いです。

○開催期間

平成6年7月17日～9月11日

○会場

三島市郷土館 1階 企画展示室

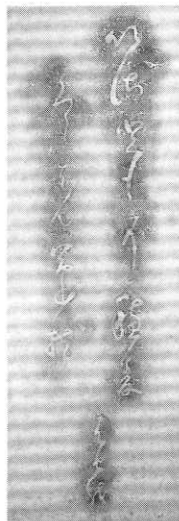
○展示概要

I 宮治 勲氏作品集

- (1)松尾芭蕉句碑めぐり
- (2)そのほかの文学碑めぐり

II ふるさとの文学散歩

- (1)オープンロード箱根八里
- (2)三島のみずべ文学散歩
- (3)そのほかの文学碑めぐり



「いさともにくらはもに
草枕麦
はせを」



「なべて世の風をおさめよ
神の香よ
宗祇」

▲連馨寺（広小路町） 松尾芭蕉句碑

三島で最古の句碑。官鼠が芭蕉供養のため安永7(1778)に建立したもの。

(採拓は2点とも宮治勲氏)

▲定輪寺（裾野市 桃園） 飯尾宗祇句碑

中世三島の花ともいえる有名な句。室町時代の連歌師宗祇は、三島にて東常縁とうのつねよりから古今伝授を受け、宗匠の地位を不動のものとした。この句は「独吟法楽三島千句」の発句。

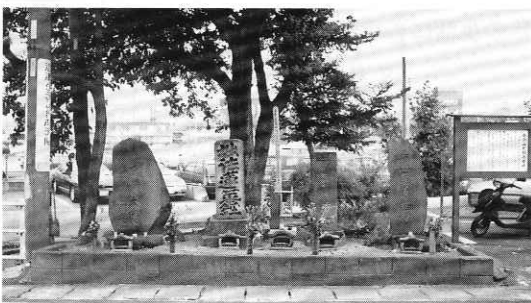
変貌する町並みと石造物

周辺の農村地帯を歩くと、路傍でしばしば種々の石造物を見付けます。それはサイの神だったり、馬頭観音や庚申塔、地藏菩薩だったりさまざまですが、苔むして佇むその姿に、どこか昔懐かしい郷愁を感じることがありませんか。

移ろいの風趣を楽しむ日本の風景の中にあつて、たとえ小さな石造物であっても、石は長い歴史を背負った、動かぬ景観構成要素であり続けてきたものです。

ところが、マチはもとよりムラにいたるまで、昨今の開発・産業発展等に伴う景観改造は、それまで動かぬものであったはずの石造物さえも、厳しい変貌の渦中に巻き込んでしまいつつあるように思われます。

このような変貌潮流の中にあつて、現代まで残され、地域の人々によって守られている数少ない石造物が、今もあります。この、ふるさとの原風景の証人ともいえる2例の石造物について、報告いたします。



刑場跡石造物群

新幹線三島駅北口から線路沿いに西へ数百メートル行った地点に数基の石造物群があります。これらは、かつて「小浜刑場跡地」に建てられていた供養塔で、元は宿場時代の三島において刑を受けて亡くなった人たちの霊を慰める目的で建立されたものです。小浜刑場は昔から三島の人々に小浜山と呼ばれてきた小高い溶岩の丘の上であり、昭和の初め頃までは松の大木が目印のようにそびえていたといいます。近年にいたり新幹線がここを横切ることになり、また三島駅も拡張され、供養塔は現在地に移されました。

石塔は全部で4基、最も古いものは寛永十三年丙子十一月十五日建立で、平妙寺の滌譽

上人の手になる「南無阿弥陀仏」。二番目は寛政元己酉三月の建立、文字は初期龍澤寺の名僧東嶺禅師による「妙法蓮華経」。三番目は「木喰観正」碑。文政二年卯年七月、旧茶町中（現在の西本町）の世話人荘兵衛ほかが建立。石工は高遠石工の流れをくむ「うるし畑」（漆畑）。四番目は明治三十四年九月建立で、「南無妙法蓮華経」の題目塔。文字は玉沢の日遙上人、米山倫次という人が建立。石工は小沢福太郎。

これら刑場跡の石塔群は、現在は場所が移り、すぐ脇を現代交通の象徴である新幹線が轟音をあげて走り去るといふ、昔では思いも寄らない場所に鎮座する事となってしまったが、不思議な事にそうした状況に対する違和感はありません。それは何故でしょうか。

旧の茶町では、今でも、毎年七月二十四日になると十七、八人が集まって供養祭を開いています。僧を招き、市長、駅長、町内会役員等多数の列席のもと、この行事は欠かした事がないそうです。おそらく文政年間の「木喰観正」碑建立以来の行事でしょう。

石造物群を取り巻く景観は著しく変わつても、そこに違和感を感じないのは、それらが今も生き続けている故であろうと思われま



鬼鹿毛馬頭尊

旧佐野街道鎧坂にある同碑は、今年度の道路工事により、建立以来、今度で数回目の移動を余儀無くされました。明治十六年の「鬼鹿毛」碑と昭和十四年の「愛馬忠霊」碑は、いずれも死んだ軍馬を供養した碑だとおもわれますが、いわゆる一般的な「馬頭観音」碑と異なることは小山町の新柴観音を分霊した点です。

それにしても、数度の移動にも拘らず、今でも土地の人々の信仰を集め、立っているその姿は周囲の風景に溶け込んで見えます。

平成5年度 三島市郷土館事業報告

郷土館では、常設展示の充実を図り、企画展を開催、市民各層を対象とした講座を開設しました。主なものは次の通りです。

区分	事業名	内 容	実施日	入館者又は参加者	備 考
常設展示	ふるさとの自然と 民俗(2階) 三島の歴史(3階)	三島暦、三四呂人形、農具、下駄作り 道具、農家・商家の復元家屋など。	年 間		2・3階は 常設展示場
		旧石器時代から江戸時代までの三島の 歴史を展示紹介。	年 間		
企画展示	ふるさとの画家と その作品展	栗原忠二、下田舜堂など郷土の画家の 絵画を中心に展示	7月25日 ～ 8月31日	9,075人	ふるさと創生 事業で購入
	竹と生活展	郷土の祖先たちが竹を利用して、どの ような生活を展開してきたかを知る	11月14日 ～ 6年2月13日	15,432人	竹の民具、 竹のおもちゃ ほか
	糸機とくらし展	生活の三要素の一つである衣生活につ いての民俗的な理解を深める。	3月15日 ～ 5月15日	15,835人	糸機道具 グアテマラ衣装 ほか
教育普及	縄文土器作り教室	縄文土器作りを通して、古代の生活に 対する理解を深めた。	7月28日・30日 8月25日	小学生 (4～6年生) 32人	夏休み利用
	郷土教室	竹細工作り教室 ナイフの使い方等を学び、竹トンボ、 水鉄砲、ユラリトンボなど竹製のおも ちゃを作った。	6月12日	小学4～6年生 15人	第2土曜日 の学校休校日 を利用
			7月10日	12人	
			9月11日	6人	
	6年2月12日	10人			
		親子草木染教室	11月13日	小学4～6年生 と母 28人	
郷土学習会	夏休みを利用し、三島の歴史・地理な どについて学ぶため、佐野街道・沢地 道を訪ね歩いた。	8月12日	小学4～6年生 17人	講 師 津高重作氏	
ふるさと講座	北上地区を歩く	11月11日	28人	望月一夫氏	
	中郷地区を歩く	11月26日	30人	伊達 主氏	
	旧三島町を歩く	12月3日	29人	秋津 亘氏	
	錦田地区を歩く	12月10日	27人	鈴木辰己氏	

教育普及	歴史講演会	江戸時代享保年間徳川第8代将軍吉宗のとき、長崎から江戸へ運ばれた「象の旅」を通して宿場のできごとを講演した。	6年3月23日	96人	講師 石坂昌三氏
	(自主グループ活動) 初級・中級 古文書講座	会員による原文テキスト古文書の解説を学習(年12回)	中級:毎月第3土曜 初級:毎月第3日曜	中級会員 21人 初級会員 26人	講師 辻 真澄氏
	古文書読習会	古文書の解説学習会。「樋口本陣史料」等古文書の解説	毎月第1,4 土 曜	会員19人	講師 長谷川福太郎氏
収集	郷土資料の収集	(1)市民からの連絡を受けて収集する日常活動における収集。(2)企画展などの機会に収集	平成5年4月) 平成6年3月		民具、古文書 その他の資料
出版活動	「郷土館だより」 の発行	郷土館行事広報及び調査研究報告など。	年3回発行	(1,500部)	無料配布 8ページ
	「三四呂人形 絵葉書(1)」の作製	人形作家野口三四郎作品の中から「磯」、「水辺興談」、「桃子」、「里子」の4点を絵はがきにしてセット販売	8 月	(2,000部)	4枚セット1部 100円
	企画展に伴う 出版	(1)「ふるさとの画家とその作品展」パンフレット	平成5年7月	(2,000部)	無料
		(2)「竹と生活展」図録	平成5年11月	(1,000部)	500円
		(3)「糸機とくらし展」パンフレット	平成6年3月	(2,440部)	無料
	「三島宿本陣家史料集(10)」の発行	古文書読習会会員の解説協力により、樋口本陣文書を解説して、史料集として刊行。	平成6年3月	(300部)	2,300円
「郷土館のしおり」 発行	郷土館展示案内、各種事業を紹介したパンフレット	平成5年12月	(2,000部)	無 料	
「広報みしま」に 郷土館シリーズ掲載	郷土の歴史や民俗について紹介記事を掲載。	毎月1回 (1日号)	(全世帯 配布)		
その他	郷土館冷暖房設備 設置・取替工事	郷土館建物の冷暖房設備の老朽化により取替工事を施工。	平成5年7月		
	収蔵庫のくん蒸	2階の収蔵庫のくん蒸消毒実施	7月14日) 16日		専門業者 委託

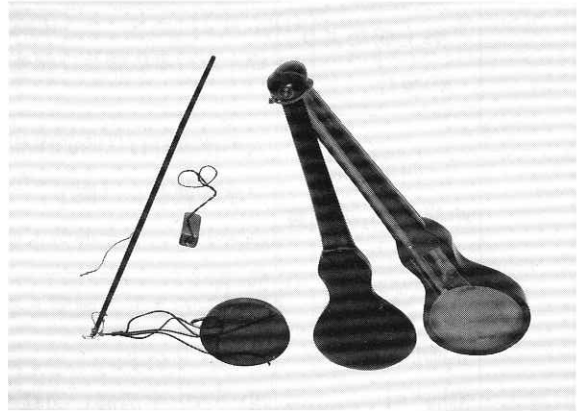
収集資料報告 (平成6年4月～7月)

収集月日	資料名	提供者	住所	備考	数量
H.6.5.14	牛の草鞋	土屋次世氏	三島市緑町12-11	土肥天金で使用	1
	ドウズリ	々	々		1
同 6. 9	棒 秤	佐藤敬子氏	東京都豊島区南池袋3-9-5		1
同	棒 秤	々	々		1
同	棒 秤	々	々		1
同	棒 秤	々	々	瓢箪型木箱入れ	1
同 6.29	マント	佐野栄一氏	三島市東本町2-3-36		1



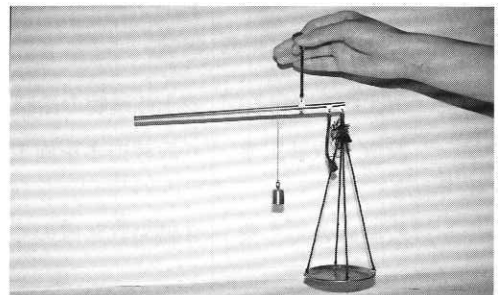
マント

マントはフランス語のmanteauが語源。肩からケープ状に体を包む袖無しオーバーコートです。明治時代以降、洋服を身に着けることが生活習慣となった日本に言葉と共に渡来した外来の衣服です。黒く、重い厚手のラシャを生地として仕立て、男性用の冬服として一世風靡したものです。ラシャもまたポルトガルからの外来語で、羊毛の織物生地のことを指します。



棹 秤

「はかり」という和語は、呉国に派遣された上毛野久比が持ち帰り、崇峻天皇に「万物をかけ定め、交易に使う波賀理というものです」と答えたことから生まれたと伝えられます。その計量方法は、棹の一端の皿上に品物を載せ、とつてを支点に分銅を移動させ、棹が水平になったときの位置の目盛りを読んで重さを決定します。



■郷土教室 報告

学校休業日に、小学生(4~6年生)に昔の生活や遊びを体験してもらう「郷土教室」も2年目を迎えました。今年は「機織り」「竹細工作り」など昔なつかしい体験学習を取り入れてみました。

「機織りと毛糸つむぎ」

6月11日

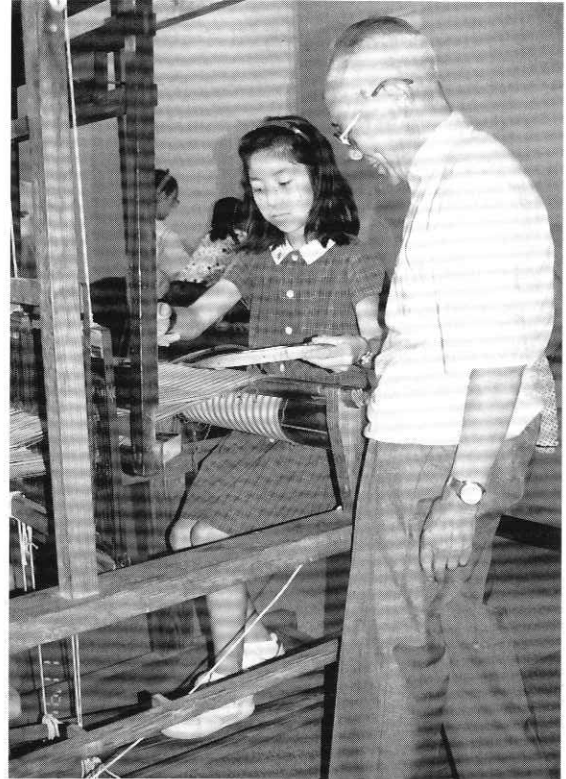
講師 染織工芸家 井上一雄さん

織り姫になりたいとやってきたのは女の子ばかりでなく、男の子も参加し、上手に機織りをしました。

初めに杉村館長より、昔の農家は女の人達が糸を紡ぎ機織りをして着物やふとん地を仕立て、家族の衣料を全て賄い、糸や織り物の起源の話から、現在でも世界各地で同じような道具を使って糸つむぎや機織りが行なわれている例を写真や模型を示しながら話されました。

さっそく、「コマ」を使い、羊毛から毛糸を紡ぎ始めました。先生が少しずつ羊毛を繰り出し、コマを回すと、ヨリがかかった毛糸がコマに巻きつきます。子供達がやってみると細くなって切れて落としたり、太い毛糸が出来たり、大変なようでした。

機織りでは、先生がお手本を示すと、「トン、カラリ」と軽快な音をたてて、みるみ



る布が織り上がります。さて子供達となると杼(横糸を通す道具)を落としたり、足を踏み間違えて、口が開かなかったり、失敗をくり返しながらも、だんだん上手に織れるようになりました。いつまでも無心に織り続ける子供達はすっかり織り姫になっていました。

(14人参加)

「竹細工作り」

7月9日

講師 竹細工研究家 瀬川 到さん

今回の竹細工作りは、35人もの参加があり狭い会議室がぎっしり埋まりました。

始めに、ナイフの使い方の注意があり「竹トンボ」作りにとりかかります。ぎこちない子ども中にはいましたが、ほとんどなんとかナイフを使いこなして羽根の形を作り上げます。



削りすぎたり、細かい調整がうまくいかないのは、普段ナイフに慣れていないのでしかたないでしょう。キリで穴をあけ、柄をつけて出来あがり。

外で飛ばしてみました。高く飛び上がって枝にひっかかったり、他の子の頭に落ちたり。

次に「ゆらりトンボ(バランストンボ)」を作ります。四枚の羽根を同じ大きさに削るのに苦勞している子がかなりいました。胴部を削り穴を開け、羽根をボンドでつけます。

最後にバランスを見ながら、尾や羽根を削って出来ます。羽根をつける角度でバランスが異なるので、かなり時間がかかりました。とてもにぎやかな作業でしたが、全員無事出来上がり、満足そうでした。

■企画展

「糸機とくらし」展 報告(3月15日～5月15日)

ひとの暮らしに関わる重要な要素の一つに「衣生活」がありますが、今回の企画展は、その衣生活が三島・伊豆ではどのようなものであったか、資料を通して理解してもらいました。

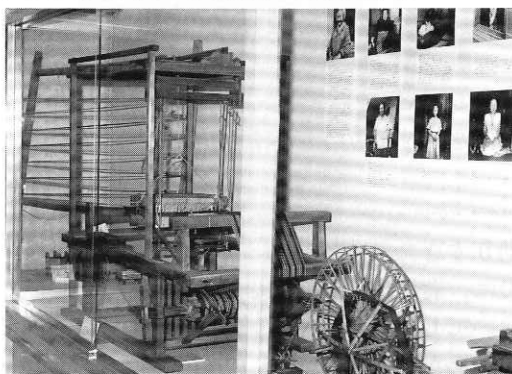
特に昭和初期の三島の商店街の多くの写真と、その頃から続く五軒の商店が協力下さり、当時のままに暖簾を復元し、展示したものが好評で、昔を知る人々からなつかしがられました。

手機も伊豆・駿河・遠州と3台展示し、地域による微妙な差を見ていただきました。

また、昭和46年頃に井上一雄氏が調査された伊豆一帯の機織り老婆の写真と聞き取り資料も貴重なものでした。

一方、内田明彦氏よりお借りし展示した、中米グアテマラインディオの民族衣裳は、その色彩の豊かさや、縫取織模様の見事さで、来館者を魅了しました。

最後に、ご協力下された皆様に心よりお礼申し上げます。(入館者 15,835人)



■お知らせ

三島市郷土館運営協議会委員の新任について

運営協議会委員の欠員に伴い、2名の運営協議会委員が7月21日付で選任されました。

○迫田信行氏(さこたのぶゆき)
三島市立北上中学校長

○山岡修一氏(やまおかしゅういち)
(株)マウントヒルエンタープライズ社長

■郷土館出版物のお知らせ

「三島宿本陣家史料集(10)」の刊行

「三島宿本陣家史料集」の通巻第10号が刊行されました。

本書は、三島宿本陣樋口家所蔵の古文書「御往来控」(文政五年)を解読した史料で本陣周辺の賑わいを想像させるに十分な、武家、公家、門跡たちの通行記録です。

前巻に続いて、いろは順の「わ」から始めて「や」の項目までの往来者氏名を記した部分を収めています。

各々の往来者については、所属藩・寺院・神社・過去の通行年月日・出役した人馬の数等が付されています。

なかには面白い記録も含まれており、読み進むうちに引き込まれていくことでしょう。

この「三島宿本陣家史料集(10)」は、三島市郷土館事務室受付にて、頒価2,300円で販売しています。

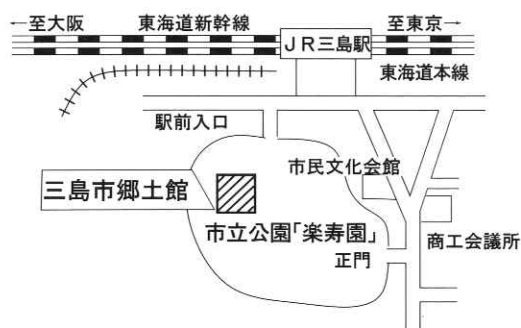
利用案内

休館日 毎週月曜(祝日の時は翌日)

12月27日～1月2日

開館時間 午前9時～午後4時30分

入場無料(但し、楽寿園入場の際、有料)



三島駅(南口)から徒歩5分。市立公園楽寿園内

郷土館だより No.49

平成6年9月10日発行

(年3回発行)

編集 三島市郷土館

住所 〒411 三島市一番町19-3 楽寿園内

TEL 0559-71-8228

FAX 0559-81-3730

発行 三島市教育委員会